

Rotary Club of SUGITO

杉戸ロータリークラブ週報

2007～2008 年度 RI のテーマ
ROTARY SHARES



会長 下津谷忠男 幹事 田中昌夫

第1895回例会 (2007年10月16日)

点鐘 下津谷会長

ロータリーソング それでこそロータリー

お客様紹介

地区奉仕プロジェクト部門委員長

中里公造様

青少年交換学生 ジェイク・マクギンティ様

会長挨拶

下津谷会長



本日は中里さんの卓話もありますので私はちょっと本の紹介を簡単にして挨拶とします。

秋の夜長と言えば読書です。それも短いものではなく長編をご紹介します。多分皆さんよくご存知だと思いますが司馬遼太郎著の「坂の上の雲」です。これは日清、日露戦争を通しての日本の有様を書いた全8巻ですが、登場人物等は下記の通りです。

日露戦争 主な会戦と登場人物

(明治37年2月10日～38年9月5日)

陸軍

明治37年8月19日～38年1月1日

旅順要塞攻撃戦 日本 死傷者59,000人

明治37年8月28日～9月4日

遼陽会戦 日本 死傷者23,500人

沙河会戦 日本 死傷者20,500人

黒溝台会戦 日本 死傷者9,300人

明治38年2月23日～3月10日

奉天(瀋陽)会戦 日本死傷者70,028人

《日本軍》

総司令官 大山 巖

総参謀長 児玉源太郎

第3軍司令官 乃木 希典

参謀長 伊地知幸介

騎兵第一旅団長 秋山 好古

《ロシア軍》

総司令官 クロパトキン

関東軍司令官 ステッセル

海軍

明治37年8月10日 黄海海戦(旅順艦隊)

8月14日 蔚山(うるさん)沖海戦(ウラジオ艦隊)

明治38年5月27日 日本海海戦(バルチック艦隊)

ロシア 38隻中28隻撃沈・捕獲 戦死4,524人

日本 水雷艇3隻沈没 戦死116人

連合艦隊司令長官 東郷平八郎

作戦参謀 秋山 真之

第2艦隊司令長官 上村彦之丞

旅順口閉塞隊 広瀬 武夫

ロシア大使館付武官 明石元次郎

バルチック艦隊司令長官 ロジェストウエンスキー

この中の秋山好古を中心にして物語りは始まる

例会日： 火曜日 12:30～13:30 例会場： 埼玉りそな銀行杉戸支店 3F

事務所： 杉戸町杉戸 2-12-26 埼玉りそな銀行杉戸支店内

TEL 0480-34-1716 FAX 0480-34-1360

訳ですが、本来日本は負けていたはずですが、唐突な勝ち方をしました。それについてはあとがきを紹介して終わりにします。「日露戦争は陸戦においては決して勝ってはいなかった。負けてはいなかったが、押し角力にすぎなかった。ロシアの伝統的な戦法は、ナポレオン戦争やヒトラーのソ連侵入戦の場合のように、一つ土俵に執着せずつぎつぎに土俵を空けては後退してゆき、最後に敵の補給線が伸びきったところではじめて大攻勢に出るのである。満州におけるロシア軍のとった戦法も多分に伝統的なものであった。日本軍は一局面ごとに勝った。つまり相手の土俵一陣地一を奪った。しかし、相手はさほどの損傷もうけずに後退してあたらしい陣地をつくってふたたび対峙するのである。そのくりかえしであった。ところが、一局面ごとに国際世論は「日本が勝ち、ロシアが負けた」と世界にむかって報じた。元来、一戦闘における勝敗の定義は軍事学の立場からいえばひどく定義づけの困難なものである。しかし、極端に言えば満州の陸戦における行司役はタイムズとロイター通信であった。それによって国際的な真理や世論が動かされた。世界中の同情が弱者である日本に傾いていたし、帝政ロシアの無期限なアジア侵略に重大な危機意識をもっていた。そういう面でのすべてが日本に有利であり、逆にいえば喧嘩というものはそういう諸条件が醸成されている場合でしかしてはならないことをこのことは教えてくれているようでもある。」

幹事報告

田中幹事



- ① ロータリー米山記念奨学会より「米山学友の消息を尋ねる運動」にご協力下さいとのお願いがきております。
- ② 上尾西RCより例会場の名称が変更になりましたとの連絡がきております。

→東武バンケットホール上尾

- ③ ガバナー事務所より地区大会に各クラブの「入会の案内、又は入会のしおり」を掲載しますのでお送り下さいとの連絡がきております。

《近況報告》 ジェイク・マクギンティ様



皆さんこんにちは。私は今杉戸高校に行っていますがとても楽しいです。みんな日本人はと

ても優しいです。私は日本の文化はとても素晴らしいし、面白いので大好きです。私の日本語はあまり上手ではありません。もっともっと勉強して上手になりたいと思います。特に、漢字はとても難しいです。

委員会報告

ゴルフ担当

中村会員



10月13日に行われましたグループゴルフの打ち合わせに行ってきたので報告します。

まず、今回は交通遺児へのチャリティということで、当初春日部にだけ贈呈するようなことを言っていましたが、杉戸にも贈呈すると言うことで福祉課と相談してやるそうです。当日は春日部の市長と杉戸町長代理の方も来る予定だそうです。表彰は団体戦上位7名のグロススコアですが、クラブによっては7名の参加が無い場合は他のクラブとの合同の成績でやるようです。従来通りチャリティホールは乗っても乗らなくても1,000円以上のご協力をお願いします。当クラブの車の手配ですが、今回は個人で車を出して頂き、時間に間に合うようによろしくお願い致します。



《職業奉仕について》

本日は、歴史と伝統のある杉戸クラブさんにおきまして、卓話をさせていただけるという事は、とても光栄なことであると同時に、この機会を与えていただきました、会長の下津谷さん、そして関口パスト・ガバナーに心より感謝申し上げます。また日頃は、奉仕プロジェクト部門の各委員会活動に、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、2003年～04年度、田村ガバナー年度に地区幹事を努めさせていただきましたが、その前年度には副幹事として、時のガバナーでございました、関口パスト・ガバナー、そして地区幹事であった武井さんには、いろいろとご指導をいただき大変にお世話になりました。改めて御礼申し上げます。

10月には職業奉仕月間ですので職業奉仕について話をさせていただきたいと思っております。

まず職業奉仕とは、「ロータリーの原点」であるとか「ロータリーの金看板」であるとか、また、ロータリーを理解するには職業奉仕を理解しないとイケないとよく言われます。

しかし、現状はどうでしょうか、他の三大奉仕は理解できるけど、職業奉仕は難しくてよく分からない、と言うロータリアンも少なく無いように思います。分からないといいながらも、実際は立派に職業奉仕を実践している方も少なくありません。この辺が職業奉仕は分かりにくいということを象徴しているのかも知れません。職業奉仕に関しては、さまざまな人が、さまざまな分野で「独自の職業奉仕論」なるものを述べられています。職業奉仕については、「自らの職業を通じて、地域社会に奉仕する」というこ

とがよくいわれています。

そして、職業奉仕の理論付けと、その実践理論を根底に活動しているのは、数多い奉仕団体の中でもロータリークラブだけだということもよくいわれています。

ロータリーに職業奉仕の理念を導入したのは、*He profits most who serves best* 最もよく奉仕するもの最も多く報いられると唱えた、アーサー・フレデリック・シェルドンであることは皆様よくご承知の通りでございます。

私がロータリーについて勉強する上で、2680地区の田中毅パスト・ガバナーのホームページ「ロータリーの源流」を参考にさせていただいていますが、その中で、ロータリーにおける職業奉仕の概念は、シェルドンが提唱した考え方を、そっくりそのままロータリーが受け入れたもので、他の奉仕団体には存在しない、独自の奉仕理念ですと言われています。そして、どんなに優れた、職業奉仕に対する考え方であったとしても、それはあくまで、その人の職業奉仕に対する考え方であって、シェルドンの考え方と異なる考え方を、ロータリーにおける職業奉仕の理念と呼ぶわけには行きません、と強い口調で述べられています。シェルドンが提唱した最もよく奉仕するもの最も多く報いられる、が現在も、ロータリーの第2モットーとなっているということは、ロータリーの職業奉仕の原点は、今もシェルドンの考え方が生きているものと思います。

先ほども申し上げましたが、職業奉仕を語るとき「自らの職業を通じて地域社会に奉仕する」ということがよく言われますが、これも当然シェルドンが提唱した、職業奉仕の理念に基づいた考え方になっています。

その、職業奉仕の理念について、田中毅パスト・ガバナーはホームページの中で次のように解説されています。

シェルドンは、何年にも渡り持続して繁栄し、発展している幾つかの企業に共通して見られる特徴をサービスと名づけました。販売する商品や、提供するサービスの品質が高いことや、価

格が適正であることは大切なことですが、店主や従業員の顧客への態度や気配り、商品や業務に対する責任、顧客が感じる満足感と公平感こういったもの全てがサービスであり、サービスの良い店には必ず顧客がリピーターとなって訪れたり別の顧客を紹介してくれます。更に、顧客の満足度の高い事業所は、結果として高い職業倫理を持った会社だということが出来ます。顧客の満足度を高めるサービスこそが、企業の永続的な発展と成功を保障する唯一の方法です。事業上得た利益は、決して自分一人で得た利益ではありません。従業員、取引先、下請け業者、顧客、同業者など、自分の事業と関係を持つ、全ての人々のおかげで得たことに感謝し、その利益を適正にシェアする心を持って事業を営めば、必ず最高の利益が得られることを、自分の職場で実証し、その方法こそが正しいやり方であることを、地域全体の職業人に伝えていかなければなりません。

まず、ロータリアンの企業が、職業奉仕理念に基づいた正しい事業経営をし、それによって事業が継続的に発展することを実証すれば、必ずや他の同業者たちもその経営方法を見習うはずです。それが結果として、業界全体の職業倫理の高揚につながるはずです。

これが

He profits most who
serves his fellows
best

の真意であり、職業奉仕の結論です。ということで、田中 毅 パスト・ガバナーの「ロータリーの源流」から、引用させていただきました。

ロータリーも誕生以来100年が過ぎ、時代と共に少しずつ変わってきました。しかしこのシェルドンが提唱した、職業奉仕の原点とも言うべき理念は、今後も変わらず受け継がれるべきものではないでしょうか。

その一方、長い歴史の中で、時代の変化と共に職業奉仕に対する考え方も、人によってさまざまな考え方が出るのも当然のことと思います。

以上職業奉仕について簡単に申し上げました

が、ご清聴ありがとうございました。

出席報告

仁部会員



出席免除 2名

月日	会員数	出席	欠席	MU	出席率
10/16	24	15	9	6	88%

スマイル報告

仁部会員

中里様→昨日の地区大会の記念ゴルフ大会では杉戸クラブの皆様にもお世話になりました。本日はよろしくお願い致します。

下津谷会長→中里部門委員長さん、本日は卓話誠にありがとうございます。

関口会員→中里奉仕プロジェクト委員長、お忙しいところ有難うございます。職奉についてよろしくお願ひします。

渡辺良一会員→亀田何某の切腹が見たかったのですが、実現すれば物書の三島以来のことだったので・・・期待していたのですが！

仁部会員→お客様ようこそ！昨日の地区大会記念ゴルフ大会に参加してまいりました。楽しむことはいいことです！

武井会員→中里部門委員長、遠くから来ていただき有難うございます。卓話よろしくお願ひ致します。

以下同文→中村会員、中島会員、舟越会員、大作会員、本多会員、黒岩会員、細井会員、田中会員、井上会員、鈴木会員

本日投入額	20,000円
累計額	315,500円